

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年3月25日(2010.3.25)

【公表番号】特表2007-504863(P2007-504863A)

【公表日】平成19年3月8日(2007.3.8)

【年通号数】公開・登録公報2007-009

【出願番号】特願2006-525566(P2006-525566)

【国際特許分類】

A 6 1 M 1/36 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 1/36 5 4 5

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年1月28日(2010.1.28)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

血液または血漿の流れと接触することが出来る固体担体を含むアフェレーシス装置であって、固体担体がアミロイド-₄₀-前駆タンパク質(APP)-結合性受容体を含むことを特徴とし、

該APP-結合性受容体は、抗-APP抗体、抗-A₄₀抗体、抗-A₄₂抗体；APP-結合性タンパク質；APP-結合性ペプチド；APP-結合性ガングリオシド；またはこれら受容体の混合物からなる群から選択され、

該APP-結合性タンパク質は、ゲルゾリン、apoJ、apoE、CETPおよびERABからなる群から選択され、

該APP-結合性ペプチドは、KTYNLKGQT-C(ペプチド4077)、GIAVASKTYNLKGQTHTLEDFQRVLDV(ERAB93-120)、SKTYNLKGQTHT(ERAB98-110)、C-HQKLVFFAED(ペプチド1323)、C-EVHHQKLVFFAEDVGS(ペプチド1324)、C-HQKIVFFAED(ペプチド1325)およびFGFPEHLLVDFLQSL-C(ペプチド1208)からなる群から選択され、

該APP-結合性ガングリオシドはGM1である、装置。

【請求項2】

抗-APP抗体、抗-A₄₀抗体、抗-A₄₂抗体が、3D6(A₁₋₅)、2H3(A₁₋₁₂)、2G3(A₃₃₋₄₀)、21F12(A₃₃₋₄₂)、12H7(A₃₃₋₄₂)、10D5、16C11、m266およびm243からなる群から選択されることを特徴とする請求項1の装置。

【請求項3】

担体が無菌バイロジエン不含有カラムであることを特徴とする請求項1または2の装置。

【請求項4】

アルツハイマー病の治療または予防を提供するための請求項1～3のいずれかの装置。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 2】

4. ペプチド1208(FGFPEHLLVDFLQSL-C)に対するA₄₂の結合研究

ペプチド 1208へのアミロイド-₁₋₄₂結合の分析のために、まずペプチドを担体タンパク質 (BSA)にペプチド濃度500 μ Mol (およそ1 mg/ml)で結合(coupling)させた。1208-BSA コンジュゲートをELISA プレートに結合させ、ここでウェルあたり100 ngのペプチドが結合した。ELISA プレートをPBS、1% BSAで満たし、その後、アミロイド-₁₋₄₂ (1-42)の結合を濃度範囲8-1000ng/ウェルにて分析した。結合したアミロイド-₁₋₄₂を特異的マウス抗体で検出した。最後に、結合したアミロイド-₁₋₄₂の量を、ビオチン化抗-マウス抗体とストレプトアビジン結合ペルオキシダーゼを用いて定量した。基質としてABTSを用い、分析は405 nm の波長でELISA リーダーで行った(図1)。

【誤訛訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0063

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0063】

ペプチド 1208の結合の分析のために、アミロイド-₁₋₄₂ (1-42)をELISA プレートに結合させた(500 ng/ウェル)。次いで、ELISA プレートをPBS、1% BSAで満たし、遊離のペプチド 1208または1208-BSA コンジュゲートをそれぞれ添加した(0.8-50 ng)。結合したペプチドを特異的モノクローナル抗体で検出した。最終的な定量のために、ビオチン化抗-マウス抗体とストレプトアビジン結合ペルオキシダーゼを用いた。基質としてABTSを用い、分析は405 nmの波長でELISA リーダーで行った(図2)。

【誤訛訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0064

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0064】

1208-BSA コンジュゲートをELISA プレートに結合させ(100 ngペプチド/ウェル)、プレートをPBS、1% BSAで満たした。次いでアミロイド-₁₋₄₂ (1000 ng/ウェル)の、遊離ペプチド 1208または対照-ペプチド (濃度範囲16-2000 ng/ウェル)の存在下での結合を分析した。結合したアミロイド-₁₋₄₂の検出は前述のように行った(図3)。

【誤訛訂正5】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図3】

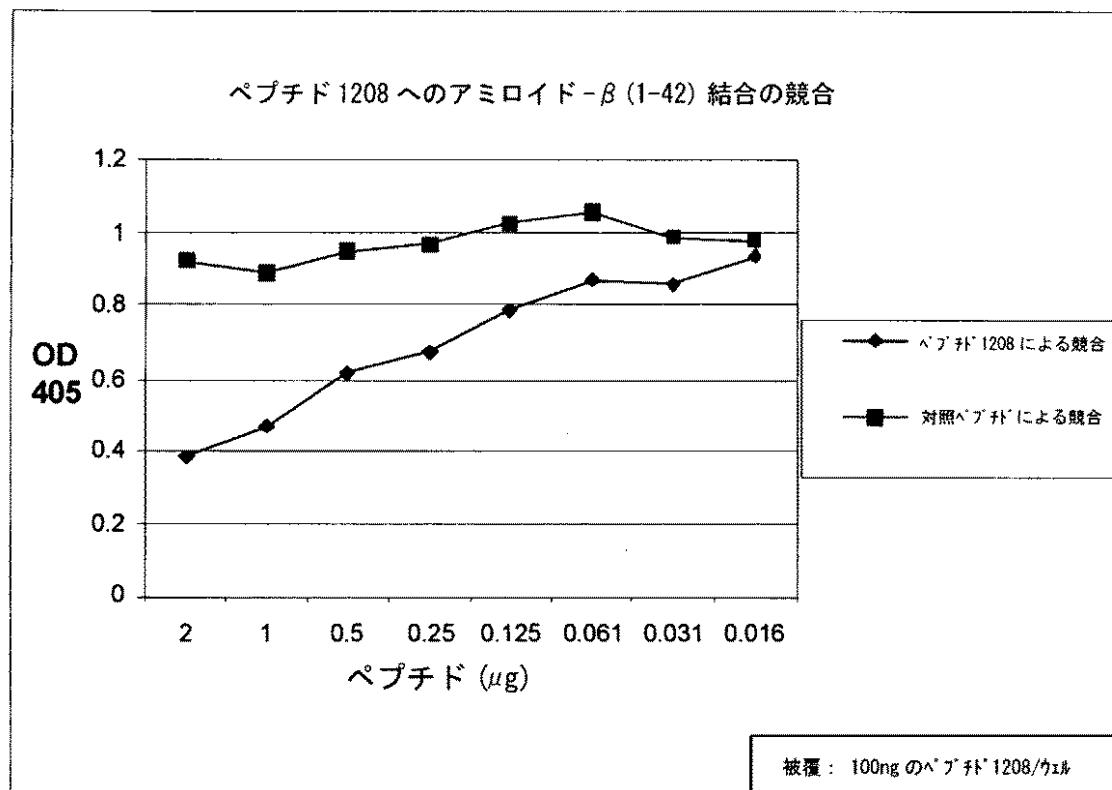


Fig.3